

富田林小学校

# SEだより

スクール・エンパワーメント

確かなことばの力を育む  
～どの子も主体的・対話的に学び合う  
国語科の授業づくりをめざして～

令和5年12月19日

校内研究授業  
6年国語  
「『鳥獣戯画』を  
読む」



上の絵は、国宝「鳥獣人物戯画」の一場面です。教科書では、高畑勲さんが、この絵の解説文を書いています。その解説文の書き方から、「表現の工夫をとらえて読み、それをいかして書こう」というのが、この学習の目標です。学校では、日記・作文・報告文など書く場面がたくさんあります。読み手に伝わる文章を書くために意識すべきことは、学年に合わせて学習し、積み重ねていきます。最高学年である6年生は、「工夫して書くこと」に挑戦しました。書く時の工夫とは…これを高畑勲さんの文章から見つけ、学びました。

6年1組で研究授業を行いました。

目標（学習指導要領より）

【知識・技能】

- ・日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気づくことができる。

【思考・判断・表現】

- ・筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えることができる。
- ・引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。
- ・目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりすることができる。

【学びに向かう力、人間性等】

- ・言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

この時間の学習の目標は、「『鳥獣戯画』の一場面を選び、それを解説する文章を書くことができる。」です。

高畑さんの文章には、セリフや問いかけ・呼びかけの表現があったり、文末表現・語尾が統一されていたり、言葉の表現が豊かであったりという工夫があることを見つけました。

これまでの学びをいかして、解説文を書きます。学習のめあては、「高畑さんを超える解説文を書くために」です。



↑メモを使って、 ↑自分の学習ノートや、掲示物で、↑これまでの学びを確認しながら…「文章の工夫」を考えて集中して書き上げました。



<p>ジャブンツ。ある 兎がとびこんだ。こ ちらの猿は、気持 ちよさそうに泳い でいる。ここはどこ だろうか。川にも 見える。略</p>	<p>「一発行くぞ 」。兎と蛙が狩り の練習だ。「頑張 れ！」という応援の 声や、「みんな応援 しているな」見渡 している兎と蛙が いる。略</p>	<p>ドスン！大きな 音が鳴る。先を急い でいた兎達が、笑い ながら起こそうと する。オロオロとす る蛙や、早く遊びに 行きたくて走る蛙 が。略</p>
--	--	--

これらは、子ども達が書いた解説文です。書き出しだけの紹介ですが、音やセリフで始めたり、一文を短くしたり、工夫したところがよく分かります。一人ひとりが、三枚の絵の中から一枚を選んで書いています。書き出しだけでも、それぞれどの絵のものか、分かってもらえたと思います。

《ふりかえり》

- ・かえるやうさぎのセリフを多くした。セリフを多くすることで、あきない作品になり、その状況が分かりやすくなると思う。一文を短くし、読みやすくするのを意識した。
- ・ちょっとしたことで、読んでいる人を楽しいと思わせることができることが分かった。説明力が高くなったと思う。
- ・「だと思わないか。」を使って、相手を考えさせた。同じ意味でも、表現の仕方が違っておもしろかった。
- ・文末を意識して書いた。自分でもよく気づけたものがあった。先生のお手本を見たり、前の時間に出し合ったみんなの意見を参考にしたりした。

この単元の学習を始めた頃と比べても、子ども達の書く文章は、短期間で大きく変化しました。6年生はまた、大きな学びを積み重ねることができました。